# **企業におけるOSSコンプライアンス業務実態調査 (調査票)**

2020年6月

OpenChain Project Japan Work Group

Promotion Sub Group OSSスキル標準検討チーム

拝啓

　貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、日本国内外の企業におけるOSSコンプライアンス業務への取り組みの実態を調査・分析し、各社における業務改善の一助にしていただくと共に、OSSスキル標準の策定に向けた検討に使用するため、アンケート調査を実施することに致しました。本調査の結果は、OSSスキル標準化に対する提言として一般社団法人　日本知財学会へ投稿する予定です。

効果的な調査実施のため、幅広く皆様にご回答をいただきたいと思っております。貴社におかれましても、ご多用中とは存じますが、ご協力のほどお願い申し上げます。

　尚、回答期限を2020年7月10日とさせていただいておりますので、期限内にご回答いただきます様、宜しくお願い致します。

敬具

記

1. アンケート名称

企業におけるOSSコンプライアンス業務実態調査

1. 目的

企業におけるOSSコンプライアンス業務の実態を調査・分析し、OSSスキル標準の策定に向けた提言の一環として学術論文の形式に纏め、学会へ投稿する。

1. 方式

記名・匿名集計アンケート方式

* 同一組織からの重複回答を考慮するため回答者のお名前を記載いただきます。
* 回答いただいたデータは匿名で集計し、回答企業を特定できない形式で使用します。

1. 調査結果について

調査結果の集計が完了した時点で、簡単なまとめをご協力頂いた皆様に共有致します。

詳細データや分析結果については来春以降論文に掲載予定です。

1. 回答方法について

下記の[Web回答URL]より回答いただくか、Wordフォーマットに回答ご記入の上、下記の[ご回答送付先]へご返送ください。

Web回答URL：

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfQduZtCNFJXtw_BA5YVQIFp36Q6Rbb7b1V_j8bUcYbsm7h8A/viewform>

ご回答送付先：[oss-skill-standard@googlegroups.com](mailto:oss-skill-standard@googlegroups.com)

以上

貴社のプロフィールについてお尋ねします。下記の項目にご記入ください。

|  |  |
| --- | --- |
| 貴社名 |  |
| 回答者名 |  |
| 回答者所属部署名 |  |
| 回答者連絡先(メールアドレス) |  |
| 個別ヒアリングへの対応可否  (該当するものに☑) | ご回答いただいた内容に関する個別ヒアリングにご対応いただけますか？  　はい　/　 　いいえ |
| 業種  (該当するものいずれかに☑) | 情報通信業　　業務用機械器具製造業　　電気機械器具製造業　　情報通信機械器具、電子部品・デバイス・電子回路製造業　　輸送機械器具製造業  　その他(具体的にお書きください： ) |
| 資本金規模  (該当するものいずれかに☑) | 5,000万円未満 　5,000万円以上～1億円未満　　1億円以上～5億円未満　　5億円以上～10億円未満　　10億円超 |
| 従業員数規模  (該当するものいずれかに☑) | 300人未満　　300人以上～500人未満　　500人以上～1,000人未満  　1,000人以上～5,000人未満　　5,000人以上～10,000人未満　　10,000人以上 |

* お名前とご連絡先(メールアドレス)を記入いただいた方へは、本調査におけるフィードバックレポートをお送りさせていただきます。
* 回答期限を2020年7月10日とさせていただきます。

アンケート調査にご協力いただいた企業様の一覧に貴社名を掲載することをご承諾いただける場合は、下記のチェック欄に☑をお願い致します。

会社名の記載に承諾します。：　

■　ここからアンケートが始まります。該当する項目にご記入またはチェック欄に☑を付けてください。

■　ご回答いただく際には貴社全体の内容でお答えください。

■　回答が難しい場合は、空欄でも構いません。

設問1：　貴社におけるオープンソースの活用用途について伺います。

下表のうち、貴社におけるオープンソースの活用用途に該当するものに☑を付けてください。

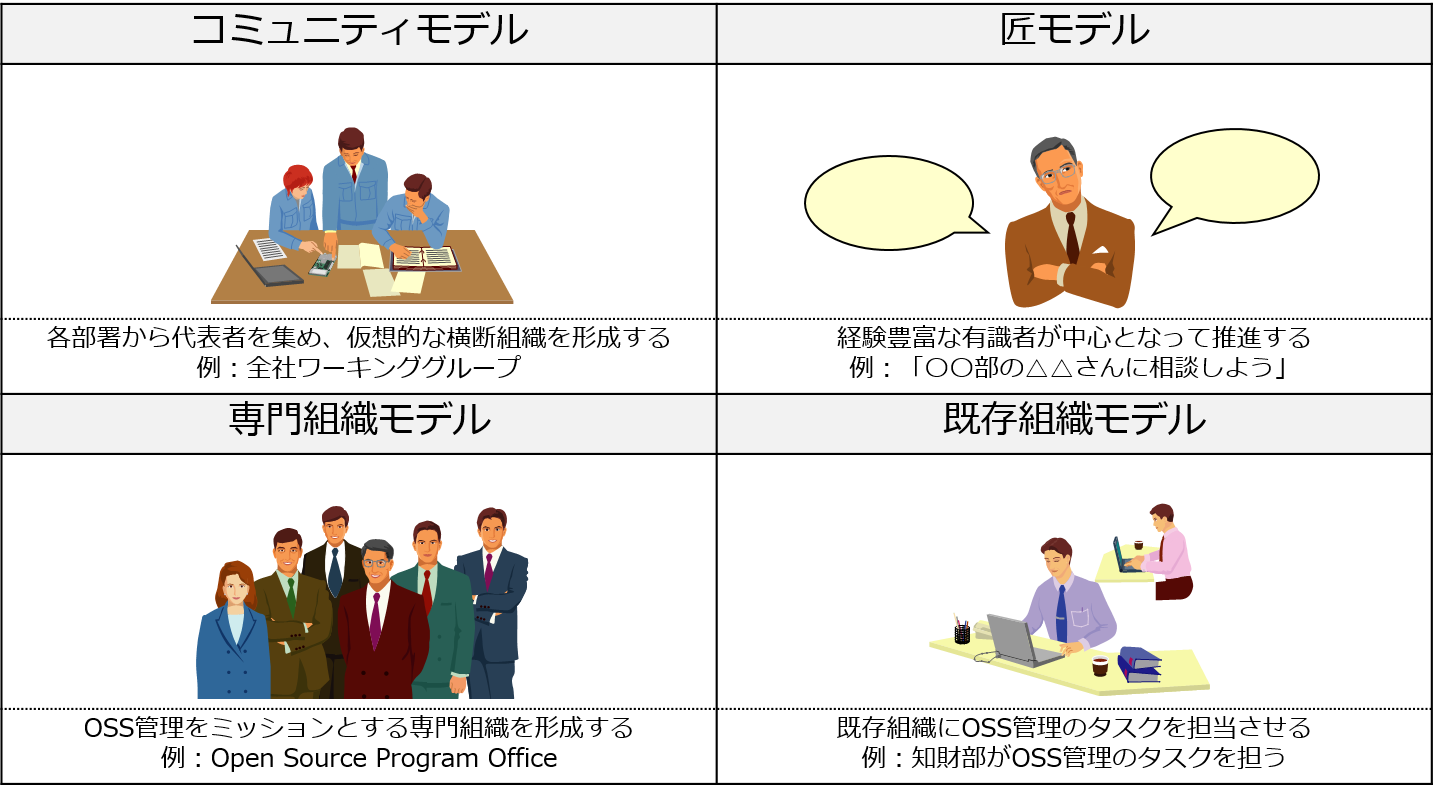
|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| # | 名称 | 説明 | エンドユーザへの  提供物 | 回答欄  (該当するものに☑) |
| 1 | SIサービス | * ハードウェア・OS・ミドルウェアでシステムを構築し、ユーザへ提供する(作業範囲は構築のみであり、プログラム開発を伴わない)。 * オープンソースをOSやミドルウェアとして利用する。 | 構築したシステム |  |
| 2 | システム開発 | * ハードウェア・OS・ミドルウェア・ユーザプログラムでシステムを構築し、ユーザへ提供する(ユーザプログラムの開発を作業範囲に含む)。 * オープンソースをOSやミドルウェア、ユーザプログラムの開発において利用する。 | 構築したシステム |  |
| 3 | プロダクト開発 | * ミドルウェアまたはアプリケーションを開発し、ユーザへ提供する。 * オープンソースをミドルウェア、アプリケーションの開発において利用する。 | ミドルウェア  アプリケーション |  |
| 4 | サービス提供 | * ハードウェア・OS・ミドルウェア・サービスアプリケーションでシステムを構築し、ユーザに対してサービスを提供する。 * オープンソースをミドルウェア、サービスアプリケーションの開発において利用する。 | サービス |  |
| 5 | 組込製品開発 | * ハードウェア・OS・ミドルウェア・組込みアプリケーションで組込製品を開発し、ユーザに対して提供する。 * オープンソースをミドルウェア、組込アプリケーションの開発において利用する。 | 組込製品 |  |
| 6 | エンドユース | * オープンソースを研究開発や自社内におけるサービスの目的で使用または利用する。 | なし |  |

設問2：　貴社におけるオープンソースの管理組織体系について伺います。

下図は、組織におけるオープンソース管理組織をモデル化したものです。

貴社のオープンソース管理組織の体系に最も近いモデルを選択して下さい。

また、貴社の管理組織における長所および課題・問題点があれば教えてください(自由回答)。



|  |  |
| --- | --- |
| 回答欄 | |
| 自社のOSS管理組織の体系に最も近いモデル  (該当するものに☑) | コミュニティモデル  　匠モデル  　専門組織モデル  　既存組織モデル |
| 自社のOSS管理組織の長所  (自由回答) |  |
| 自社のOSS管理組織の課題・問題点  (自由回答) |  |

設問3：　貴社内のオープンソース関連業務の担当部署について伺います。

貴社内において、下記の#1～6の業務を担当している部署はありますか？

ある場合はどの部署が担当しているか、教えてください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | オープンソース関連業務 | 担当部署(該当するものに☑) |
| 1 | 【オープンソース戦略】  オープンソース戦略を策定し、組織内・組織外にオープンソース戦略を明確に伝え、実行する。  [説明]   * 「オープンソース戦略」とは、企業においてオープンソースを活用する範囲と目的、およびその実現方法について定めたもの。 * 「明確に伝える」とは、文書化され、アクセス可能な形で提供されたり(組織内向け)、公式の場で発表されたり(組織外向け)することを意味する。 | オープンソース専門部署(OSPO)  　経営企画室、経営戦略策定部門  　技術戦略策定部門(CTO室など)  　ソフトウェア開発部門  　品質管理(保証)部門  　法務部門  　知財部門  　情報システム部門  　情報セキュリティ部門  　その他(　　　　　　　　　　　　　　　　)  　該当する部署なし |
| 2 | 【組織啓蒙】  組織内にオープンソース文化を育成する。  [具体例]   * 「オープンソース文化の育成」とは、従業員に対してオープンソースについての教育を行ったり、オープンソースに関する情報を提供したり、オープンソースを活用しやすい環境を整えたりすることを意味する。 | オープンソース専門部署(OSPO)  　経営企画室、経営戦略策定部門  　技術戦略策定部門(CTO室など)  　ソフトウェア開発部門  　品質管理(保証)部門  　法務部門  　知財部門  　情報システム部門  　情報セキュリティ部門  　その他(　　　　　　　　　　　　　　　　)  　該当する部署なし |
| 3 | 【コンプライアンス業務】  オープンソースライセンスコンプライアンスに関する管理業務を定義し、組織内のルールを策定し、実行する。  [説明]   * 「オープンソースライセンスコンプライアンスに関する管理業務」とは、オープンソースのライセンスに従い、入手から活用、リリースまでの各フェーズにおいて実施するべき責務が実施されたかどうかを管理することを意味する。 | オープンソース専門部署(OSPO)  　経営企画室、経営戦略策定部門  　技術戦略策定部門(CTO室など)  　ソフトウェア開発部門  　品質管理(保証)部門  　法務部門  　知財部門  　情報システム部門  　情報セキュリティ部門  　その他(　　　　　　　　　　　　　　　　)  　該当する部署なし |
| 4 | 【サプライチェーンマネジメント】  サプライチェーンマネジメントのポリシーを策定し、仕入れ元に対して情報開示を依頼したり、提供先企業に情報開示を行ったりする。  [説明]   * 企業間で行われるソフトウェアの授受において、自社に納品されるソフトウェアに内包されるオープンソースの情報の開示を求めたり、自社から取引先企業に納品するソフトウェアの構成情報を提供したりしていることが望ましい。 | オープンソース専門部署(OSPO)  　経営企画室、経営戦略策定部門  　技術戦略策定部門(CTO室など)  　ソフトウェア開発部門  　品質管理(保証)部門  　法務部門  　知財部門  　情報システム部門  　情報セキュリティ部門  　その他(　　　　　　　　　　　　　　　　)  　該当する部署なし |
| 5 | 【セキュリティ対策】  オープンソース由来の脆弱性の情報を定期的に収集し、影響分析を行い、必要な場合は対策を行う。  [説明]   * オープンソース由来のセキュリティ脆弱性に対応するためのルールやプロセスが存在し、適切に対処されることが望ましい。 | オープンソース専門部署(OSPO)  　経営企画室、経営戦略策定部門  　技術戦略策定部門(CTO室など)  　ソフトウェア開発部門  　品質管理(保証)部門  　法務部門  　知財部門  　情報システム部門  　情報セキュリティ部門  　その他(　　　　　　　　　　　　　　　　)  　該当する部署なし |
| 6 | 【コミュニティ貢献】  開発者コミュニティの活動に参加したり、コントリビューションしたりできるようにサポートする。  [具体例]   * コミュニティ貢献において目覚ましい活躍をした従業員に対して表彰などの動機付けを行っている、従業員がコミュニティに参加しやすいようなルールになっているなど。 | オープンソース専門部署(OSPO)  　経営企画室、経営戦略策定部門  　技術戦略策定部門(CTO室など)  　ソフトウェア開発部門  　品質管理(保証)部門  　法務部門  　知財部門  　情報システム部門  　情報セキュリティ部門  　その他(　　　　　　　　　　　　　　　　)  　該当する部署なし |

設問4：　貴社のオープンソース戦略について伺います。

下記の質問に対して、最も適切なものを選択してください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | 質問 | 回答欄(該当するものに☑) |
| 4-1 | 貴社には、オープンソースに関する会社のポリシーはありますか？ | ある(全社に周知されており機能している)  　ある(浸透していない/機能していない)  　ある(作成中)  　ない |
| 4-2 | 4-1で「ある」と回答された方に伺います。  ポリシーがある場合、次のトピックスのうち、ポリシーがカバーしているものを選択してください(複数選択可)。 | 利活用戦略（利用目的、範囲等）  　ライセンスコンプライアンス  　コントリビューション  　エンジニアリング（品質、Long Term Support、テスト、GIT利用法等）  　セキュリティ |
| 4-3 | 貴社には、ライセンスコンプライアンスに関わる各部門及び従業員の社内での役割及び責任を定義したものはありますか？ | ある(全社に周知されており機能している)  　ある(浸透していない/機能していない)  　ある(作成中)  　ない |
| 4-4 | 4-3で「ある」と回答された方に伺います。  上記の役割を果たすための能力要件を定義していますか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 4-5 | 4-4で「はい」と回答された方に伺います。  上記の能力要件に基づいて従業員を評価し、その評価結果を文書として保管していますか？ | はい /　 　いいえ |
| 4-6 | 貴社のオープンソース戦略について課題や問題点があれば教えてください。(自由回答) |  |

設問5：　貴社における組織啓蒙について伺います。

下記の質問に対して、最も適切なものを選択してください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | 質問 | 回答欄(該当するものに☑) |
| 5-1 | 貴社には、オープンソースに関する教育プログラムはありますか？ | ある(全社に周知されており機能している)  　ある(浸透していない/機能していない)  　ある(作成中)  　ない |
| 5-2 | 5-1で「ある」と回答された方に伺います。  教育プログラムがある場合、次の教科のうち、教育プログラムがカバーしているものを選択してください(複数選択可)。 | OSS基礎知識  　利活用戦略（利用目的、範囲等）  　ライセンスコンプライアンス  　コントリビューション  　エンジニアリング（品質、Long Term Support、テスト、GIT利用法等）  　セキュリティ |
| 5-3 | 5-1で「ある」と回答された方に伺います。  どのようなタイプの教育プログラムをお持ちですか？(複数選択可)。 | マニュアル  　eラーニング  　社内講師による講座  　社外講師による講座 |
| 5-4 | 貴社における組織啓蒙について課題や問題点があれば教えてください。(自由回答) |  |

設問6：　貴社におけるOSSコンプライアンス業務について伺います。

下記の質問に対して、最も適切なものを選択してください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | 質問 | 回答欄(該当するものに☑) |
| 6-1 | 貴社には、OSSライセンスをレビューし、それぞれのライセンスが付与する義務、制約、および、権利を判断する文書化されたプロセスがありますか？ | ある(全社に周知されており機能している)  　ある(浸透していない/機能していない)  　ある(作成中)  　ない |
| 6-2 | 貴社には、オープンソースに関する情報公開や外部から問い合わせに対応に関する手段がありますか？ | ある(全社に周知されており機能している)  　ある(浸透していない/機能していない)  　ある(作成中)  　ない |
| 6-3 | 6-2で「ある」と回答された方に伺います。  どのような対応手段をお持ちですか？(複数選択可)。 | 自社Web内のOSS情報ページ  　GIT等の第三者Web内でのOSS情報公開  　OSS問い合わせ用のメールアドレス  　Linux Foundationのオープンコンプライアンスディレクトリへの登録 |
| 6-4 | 貴社は、OSSライセンスコンプライアンスに関する独立した予算を確保していますか？ | はい /　 　いいえ(※)  (※)開発費や間接費を使用している場合を含む |
| 6-5 | 貴社は、OSSライセンスコンプライアンスに関する専属の人材を確保していますか？ | はい /　 　いいえ |
| 6-6 | 6-5で「はい」と回答された方に伺います。  OSSライセンスコンプライアンスに関する専属の人材の規模はどのぐらいですか？ | 1人  　2人以上～5人未満  　5人以上～10人未満  　10人以上～20人未満  　20人以上～30人未満  　30人以上 |
| 6-7 | 貴社は、OSSライセンスコンプライアンスに関して外部の専門家のサポートを受けていますか？ | はい /　 　いいえ |
| 6-8 | 6-7で「はい」と回答された方に伺います。  どのような専門家のサポートを受けていますか？(複数選択可)。 | 弁護士  　弁理士  　コンサルタント  　認証機関  　OSS管理ツールベンダ  　その他  (具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　) |
| 6-9 | 貴社は、利用もしくは作成したソフトウェアに含まれるOSSコンポーネントの部品表（SBOM）を作成し、管理する文書化されたプロセスをお持ちですか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 6-10 | 貴社は、部品表（SBOM）としてどのようなフォーマットを利用していますか？ | SPDX  　SPDX Lite  　Software ID Tags  　その他標準フォーマット  （具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　自社独自フォーマット  　フォーマットは特に定めてない |
| 6-11 | 貴社は、利用もしくは作成したソフトウェアに含まれるOSSコンポーネントを検出するためにどのような手段を実施していますか？  (「検出する」とは、ソースコードや設定ファイル等を解析して内包するOSSを特定することを意味します。) | 構成管理ツールによる検出  　OSSベースのOSSスキャンツール  （具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　商用OSSスキャンツール  　実施していない |
| 6-12 | 貴社は、利用もしくは作成したソフトウェアに含まれるOSSコンポーネントを管理するためにどのような手段を実施していますか？  (「管理する」とは、使用しているOSSの情報をデータベース等に蓄積し活用することを意味します。) | 構成管理ツールによる検出  　OSSベースのOSS管理ツール  （具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　商用OSS管理ツール  　実施していない |
| 6-13 | 貴社は、ユースケース毎(社内利用、組込機器に利用、SI利用等)にOSSライセンスを適切に遵守するための文書化されたプロセスをお持ちですか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 6-14 | 貴社は、ソフトウェアを第三者に配布する場合にライセンスに応じた著作権表示・ソースコード開示等のコンプライアンス関連資料を準備し、頒布するために文書化したプロセスをお持ちですか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 6-15 | 貴社におけるOSSコンプライアンス業務について課題や問題点があれば教えてください。(自由回答) |  |

設問7：　貴社におけるサプライチェーンマネジメントについて伺います。

下記の質問に対して、最も適切なものを選択してください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | 質問 | 回答欄(該当するものに☑) |
| 7-1 | 貴社は、サプライチェーンの中で情報共有に関するルールを文書で共有していますか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 7-2 | 貴社は、サプライチェーンの中で情報共有を行うためにどのようなフォーマット利用していますか？ | SPDX  　SPDX Lite  　Software ID Tags  　その他標準フォーマット  （具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　自社独自フォーマット  　フォーマットは特に定めてない |
| 7-3 | 貴社は、サプライチェーンの中での啓発活動を行っていますか？ | はい /　 　いいえ |
| 7-4 | 貴社におけるサプライチェーンマネジメントについて課題や問題点があれば教えてください。(自由回答) |  |

設問8：　貴社におけるセキュリティ対策について伺います。

下記の質問に対して、最も適切なものを選択してください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | 質問 | 回答欄(該当するものに☑) |
| 8-1 | 貴社は、OSS由来のセキュリティ脆弱性を検知・管理する仕組みを持っていますか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 8-2 | 8-1で「はい」と回答された方に伺います。  どのような仕組みでセキュリティ脆弱性対策を行っていますか？(複数選択可) | インシデントレスポンスチームによる管理(CSIRT, PSIRT, FSIRTなど)  　セキュリティ専門組織による情報収集と周知・伝達  　品質保証部門による情報収集と周知・伝達  　OSSベースのOSS管理ツール  （具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　商用OSS管理ツール  　外部サービスの利用  　エンジニアによる情報収集 |
| 8-3 | 貴社は、どのような方法でOSSの脆弱性の情報を入手していますか？(複数選択可) | National Vulnerability Databaseの参照  　Japan Vulnerability Notesの参照  　IPAのウェブサイト  　JPCERT/CCのメールマガジン  　商用OSS管理ツール  　ニュースサイトやブログ  (具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)  　その他  (具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　) |
| 8-4 | 貴社は、OSSコンポーネントを取得する際、安全なリンクを介し、公式リポジトリからのみ取得するようにしていますか？ | はい /　 　いいえ |
| 8-5 | 貴社は、メンテナンスが行われていない、もしくはセキュリティパッチが作成されていない古いバージョンのライブラリとコンポーネントを監視していますか？ | はい /　 　いいえ |
| 8-6 | 貴社におけるOSS由来の脆弱性に関するセキュリティ対策について課題や問題点があれば教えてください。(自由回答) |  |

設問9：　貴社におけるコミュニティ貢献について伺います。

下記の質問に対して、最も適切なものを選択してください(選択肢から選んで回答してください)。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| # | 質問 | 回答欄(該当するものに☑) |
| 9-1 | 貴社は、OSSコミュニティへのコントリビューションを行うための文書化されたプロセスをお持ちですか？ | はい(全社に周知されており機能している)  　はい(浸透していない/機能していない)  　はい(作成中)  　いいえ |
| 9-2 | 貴社は、従業員のOSSコミュニティへのコントリビューションを促進するためにどのような施策を行っていますか？(複数選択可) | コミュニティのイベントへの参加促進  　社内イベント  　業務時間でのコントリビューション許可  　経済的サポート  　報奨制度  　その他  (具体例：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　) |
| 9-3 | 貴社におけるコミュニティ貢献について課題や問題点があれば教えてください。(自由回答) |  |

■　質問は以上です。ご回答いただきありがとうございました。

OpenChain Project Japan Work Group　Promotion Sub Group OSSスキル標準検討チームメンバ

遠藤雅人　(トヨタ自動車株式会社)

上條由紀子　(国立大学法人長崎大学)

渡邊歩　(株式会社日立ソリューションズ)

土手朋　(株式会社ミックウェア)

山田光利　(IPTech特許業務法人)

(2020年6月現在)